

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぐ住之江		
○保護者評価実施期間	令和7年2月5日		令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7年2月5日		令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心・安全に過ごせる居場所作り。	学習と遊びの空間を分けることや、活動時には安全な間隔を視覚的にわかりやすくすることで工夫している。また、利用児童が安心して過ごせるように日々の出来事などを話す時間を設けて信頼関係の構築に努めている。保護者との面談を通して支援を行うことで関わりなどについて共有し、安心して利用できるように取り組んでいる。	空間を十分に活用し、安全な距離感を保つことができるように空間を広く使った遊び方を提案する。遊びの中で児童とより一層関わる時間を確保できるよう取り組む。保護者との面談をよりこまめに実施し、効果的な関わりや支援方法についての相談が行えるように取り組む。
2	個性に合わせて支援を行っている。	日々の様子を観察し、保護者や児童のニーズを把握することで個々に合わせた支援計画を作成・実施している。実施した支援については日々報告することで共有し、よりよい支援方法を考え工夫して関わっている。得意なことを伸ばすだけでなく、苦手なことにも挑戦し小さな成功体験を積み重ねることができるよう工夫している。	今後も日々の細かな観察を大切に、保護者や児童のニーズの把握に努める。また、日々の関わりの中で気付いたことや感じたこと、効果的であった関わりについてより細かく共有し、支援方法について考えていく。成功体験を積み重ねて自己肯定感を上げることができるよう、小さな「できた」を大切にしていく。
3	個別の活動だけでなく集団活動にも取り組んでいる。	個別での活動では特性に合わせた課題を設定し、スモールステップで取り組めるよう工夫している。集団における活動ではこども同士の関わり様子も観察し、集団活動における役割やルールも習得することができるように支援している。また、社会生活におけるルールを学ぶ機会も設け、生きる力を育む支援を行っている。	個別の活動における課題のスモールステップをより細分化し挑戦意欲を引き出せるように努める。集団における活動においては、児童同士が話し合い役割やルールを決めるなどの自己決定の支援も継続していく。社会生活でのルールについては引き続き楽しく学べるように工夫する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への各種対応マニュアルや研修・訓練などの情報共有。	契約時に重要事項説明書等に加えて口頭でも説明を行っているが、定期的に行っている研修の様子を周知することや、マニュアルの周知が不足している。避難訓練の様子等はSNSを通して公表しているが、SNSの周知徹底ができていない。	契約時の説明だけでなく、面談時に再度マニュアルや取り組みについて周知することや、SNSでの周知を個別で周知するなどより確実な方法に変更する。SNSについては更新時に個別で伝達するなどの工夫を要すると考える。
2	保護者の会や、参観などの開催。	新型コロナウイルス感染症対策として開催を自粛していた。感染症分類が移行したため開催を検討していたが、実施には至らなかった。	面談時に保護者に児童の様子を見てもらう時間を設けることで、普段の取り組みや児童同士の関わりについて知ってもらう機会とする。また、保護者参加型の行事を開催することで児童・保護者ともに楽しめるような取り組みを検討する必要がある。保護者が参加しやすいよう事前に日程や時間の調整を行うなどの取り組みが必要だと考える。
3	保護者に向けた研修等の開催。	保護者に向けた研修会を開催したことがなく、研修内容について保護者のニーズの把握も不足している。また、地域の勉強会や研修会などの情報収集も不足している。	面談時などに聞き取り調査を行うことで保護者の知りたいことやニーズについて情報収集をする。また、自立支援協議会の子ども部会に参加しており、そこで地域の勉強会などの情報を収集し、そこで得た情報を保護者に周知する。